

「教育実習を振り返って」

[公立高等学校 理科]

教育実習前

- 教育実習事前指導説明会が2回設けられた
- 教育実習が始まる前に重要事項の確認、事前に先生方や教育実習生と顔合わせができた
- 教育実習に行くという心構えができた
- 指導案の作成をしておくべきなのは、周囲の教育実習生の話から聞いていたが卒業研究があったこともあり、事前に指導案の作成をすることができなかった。
- 指導案の作成に慣れておくべきだった
- 指導案の作成をあらかじめやっておくことで、修正するだけで済んだ
- 指導する内容をもっと勉強していくべきだった
- 物理を専門にやっているが大学で学んだ範囲外で宇宙の内容であったために、生徒が理解できる授業にするために教材研究をするべきだった

教育実習中

- 3週間で睡眠時間は3・4時間が平均だった
- 指導案の作成、教材研究によって睡眠時間を設けられなかった
- 質を上げようとして、寝るよりも授業の準備を重視して実習中にしんどくなった
- 受ける授業と教える授業は全然違った
- クラスや個々によって理解度や参加意欲が違った。ICTが進んでいて黒板も慣れていないのに難しかった
- 自分が理解している方法は感覚的に理解していることで、教えるときにどうしても抽象的な説明になってしまい難しいという意見が多かった
- 難しいと言われるので、1つずつ丁寧に説明していると時間が足りなくなってしまう。4時間で1単元を教えることは先生側からすると授業スピードが遅いと言われたが、どれかピックアップして説明すると理解度が深まらなかった
- 先生の1日は分単位でのスケジュールであったため、とても忙しかった
- スケジュールを頭に入れて逆算して行動・準備することが必要だった
- 生徒の質問や相談を受けているとご飯や教材研究の時間を削らないといけなかった
- 教科担当が2年生だったが、HRの担当は1年生でHRでは顔合わせが朝礼と終礼ぐらいしかなかった
- 1年生と仲良くなるのが難しく、自分たちの学生時代に比べると物静かな子が多く自分から話しかけに行かないとなかなか距離が縮まらない
- 2年生に向けたスピーチ、実習校と他校を比較する機会を校長に設けてもらった特徴
- 先輩ということできっと話を聞いてくれたが、もう少し面白くして質問時間を設ける必要があった

→もう少し厳しい学校があることを再認識することができた

○指導教官も自分も多忙であったことで模擬授業が少なく、授業するのが後半になってから慣れ始めた

→模擬授業や板書計画、目線や自信を持って授業することができるかが大きく影響した

教育実習後

○実習を終えて、全力でやっていたが生徒に残せた感覚は少なくもっとできたと感じた

→準備や先生にもっと相談しながら取り組むと、より余裕と質が上がったと思う

○教育実習は次世代の教育者の育成と、受けてきた恩の継承行事であるため負担ではない

→生徒に伝えられなかった分、他の人に伝えることで周りの人を幸せにすることでいいと教えてもらった